

キャンプ照らす水力発電

福井市大手町の上味見生涯学習施設(旧上味見小学校)の脇を流れる水路に五日、小型の水力発電機が設置された。NPO法人「自然体験共学センター」(辻一憲理事長)が同施設で開く小学生向けの夏キャンプで取り組んだもので、参加

福井で県内外児童

した約二十人の子どもたちは、互いに知恵を出しながら作業を進めた。

発電機は直径二十五センチ、長さ百センチほどの筒状の容器で、中にらせん状の羽根の付いた軸が入っていて水流で発電する。出力は十ワットほどで、当面は子どもたちがテントを張る同施設キャンプ場のLED照明用として役立てる。キャンプには県

アイデア出し水路に設置

内や京都府、大阪府、福島県を狭くし、勢いを強めよの小学三〜六年の児童が参う」とアイデアを出しながら。四日から十日まで同施設に滞在する。発電機の組み立ても行い、福井工大生(優奈さん)は「発電機と三人の指導で、電動工具でつなげるライトを、どこにねじ締めなどを体験した。水路への設置作業は「曲で長く過すキャンプは初めて」パイプを使おう」と楽しそうに話していた。(梅野光春)



用水路に小型の水力発電機を設置する子どもたち。福井市大手町で